

校長室より

## 「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校  
校長 鶴飼敦之

### 満開の九段 千鳥ヶ淵

今年の桜は予想以上に開花が早く、すでに学校周辺のソメイヨシノは満開を迎えています。桜の中、登校する生徒たちの気持ちも軽やかになっているように思います。24 日からは夜桜ライトアップも始まりました。ご家族連れで足を運んでみてはいかがでしょうか。

さて、3 月 1 日に 3 年生 73 期生の 201 名が卒業していきました。制約の多い高校生活だったでしょうが、「楽しい高校生活であった」と感想を述べて、巣立っていきました。これからはバトンを受けた君たちが二松学舎の伝統を引き継いでいく番です。新たに入ってくる後輩とともに色々な場面で挑戦し、新たなページを彩ってください。



### 令和 4 年度 修了式

以下、修了式でお話した内容の要旨です。

先日開催された高校野球の選抜大会ですが、行事予定を変更するなど全校をあげた応援で試合の前日夜からバス 8 台に分乗して甲子園入りし、アルプススタンドから野球部の応援に参加しました。応援の規制も緩和され、エール交換や声出しによる応援など多くの皆さんと共に感動を共有できたこと、とても嬉しく思います。野球部選手たちも応援に感謝しつつ、今回の結果を受けてさらに練習を積み、今回の春のリベンジを夏で果たしてくれることと思います。



先日 18 日（土）に中洲記念講堂で開催された歴史のシンポジウムに参加してきました。日本史研究家の磯田道史さんの講演と二松学舎大学の教授によるトークセッションでした。

テーマは「歴史を学び、生きる力を高める～感染症の日本史～」という内容です。一般枠で申し込んだのですが、見事当選し会場で講演を聞きました。オンラインでも 1400 名が聴講したようです。講演では磯田さんが約 100 年前に大流行したスペイン風邪のデータを基に 3 年前からコロナ禍に警鐘を鳴らしていたことを示し、歴史に学ぶことの重要性を語っていました。また、二松の教授陣からは、医学史や目に見えない病＝恐怖に対する「もののけ」の存在や文学でとらえる病、そしてヨーロッパ中世ペストとの比較などの紹介がありました。日本は島国ですから「病」は外から入ってくるものととらえ、海外では身体の内存在する病をむち打つことで排除しようとするとの考え方の違いなども興味深い内容でした。



質疑のコーナーで会場から「これからの社会を生きるため、歴史に何を学ぶのか」という質問が飛びました。これに対して、磯田さんは、「自分、相手、世間の了見」が重要で、いわゆる「三方よし」の見方が大切と答えていました。「視点をとらえるカメラも三脚が必要ですね」と話されていました。

「三方よし」とは、経営の視点から「買い手よし、売り手よし、世間よし」のことであり、「商いは、自らの利益のみならず、顧客や社会にとっても効用（満足度）が高いものであるべきだ」という近江商人の経営理念を示したものです。

これを聞いて、私は「三方一兩損」が浮かびました。落語にもなっていますが、これは江戸時代の町奉行の大岡越前守忠相の大岡裁きのエピソードです。これは、次のようなストーリーです。

三両のお金の入った財布を拾った左官が、それを持ち主の大工へ返そうとするものの、それはもう拾った左官のものであるという理由で大工はそれを受け取りません。これを調停するため、大岡越前守が一両を足して併せて四両とし、左官と大工へ二両ずつを渡すことで解決します。左官と大工はそれぞれ手に入れるべき三両が二両に減り、大岡越前守は一両の支出が発生したので、それぞれ平等に一兩損したことになります。納得できましたか？

昔から日本には、三者間で損益を均等に享受することを美徳とする文化があります。

これらの例に見られるように、自分だけよい、自分の主張を通すだけでは社会で生きていけないということを示唆していると思いませんか。相手の立場に立って、周囲の意見も踏まえながらバランスをとることが大切だと思います。

教室の前方を見てください。本校の4つの校訓が掲げられていますね。中でも「仁愛」は思いやりや情けをもって他者と接すること、「弘毅」は度量の広さを身に付けることの大切さを示しています。一年納め、学年の最後にもう一度、自分自身がこれらのことを実践できているのかを自問してみてください。

最近、社会問題になっているSNSに関する問題です。これまでも情報の授業や学年集会等でも情報モラル、リテラシーについては喚起を促してきたところです。

今年に入って、すし店で不適切な行為をネット上に投稿する高校生のことが紹介されたことは、承知の通りです。また、東日本大震災の犠牲者への配慮を欠く発言もあり、これらの当該の高校生は学校名も特定され、ネット上でいわゆる“炎上”するという事態に及んでいます。刑事上の処分はもとより損害賠償などの民事上の請求などは、もはや一個人では対応できない事態です。学校を自主退学するといったケースも生じています。

言うまでもなく、ネットに一旦アップした情報は全世界に発信されているということを改めて認識してください。ちょっとだけなら、24時間で消えるからなどの安易な気持ちや悪ふざけ等であっても個人情報や他人の写真などのアップについてはくれぐれも無いように気をつけてください。それらが公開されるのではと一生びくびくしながら生活していかなければならないかもしれませんよ。



今年一年、みなさん、いろいろな場面で挑戦し、成長しました。成長は、数字で表れるものもあります。他人から気づかされるものもあります。私たち教員にとっても、学習成績や部活動など「記録」に残る生徒もいますが、日々のクラスやクラブにおいて、生活において、手助けや掃除がしっかりできるというような「記憶」に残る生徒もいます。みなさんには自分をふりかえり、自分の成長を自分で感じてほしいと思います。実感できてこそ、次への挑戦が始まります。

そして、実感の次は、「感謝」です。成長はまわりの支えがあってこそです。まわりの人々、ここで離れ離れになるクラスメート、部活の先輩、人だけでなく、教室、机、黒板、道具などなど。また、感謝されたら、その気持ちも受け止めましょう。みなさんには、「感性」豊かになってほしいと思います。

4月には元気な顔を見せてください。

今年度で退任される先生方のご紹介をいたしました。

先生方、大変お世話になりました。お元気で、新たなステージでの活躍を祈念しております。

